

危険薬物の現状と警視庁からのお知らせ

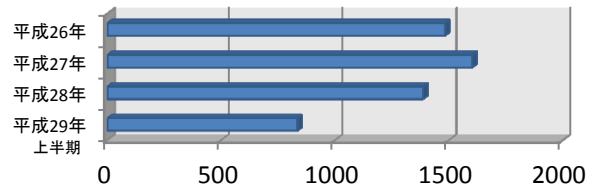
平成 29 年 10 月 15 日

警 視 庁

1 薬物事犯の警視庁における検挙状況

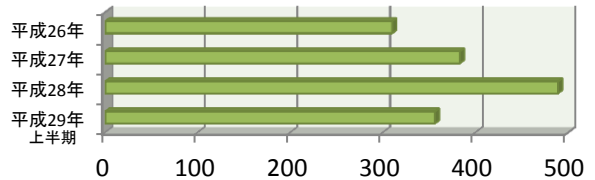
(1) 覚醒剤

	H26	H27	H28	1~6月	H29 1~6月
検挙人員	1482	1603	1387	752	835
前年増減比		+121	-216		+83



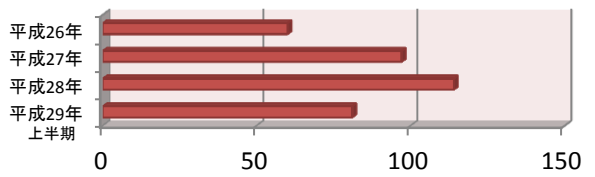
(2) 大麻

	H26	H27	H28	1~6月	H29 1~6月
検挙人員	310	383	489	259	356
前年増減比		+73	+106		+97



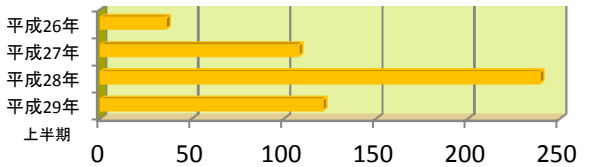
(3) 麻薬

	H26	H27	H28	1~6月	H29 1~6月
検挙人員	60	97	114	53	81
前年増減比		+37	+17		+28



(4) 危険ドラッグ

	H26	H27	H28	1~6月	H29 1~6月
検挙人員	36	108	239	88	121
前年増減比		+72	+131		+33



※ 平成29年東京の犯罪(上半期)参照

2 警視庁からのお知らせ

(1) 危険薬物の現状について

薬物事犯の検挙人員は、年々漸減傾向にありましたが、平成26年から増加に転じています。中でも、大麻事犯の検挙人員が著しく増加しております。アパート・マンションの一室を拠点や倉庫とした密売事案のほか、大麻栽培事案や、麻薬・危険ドラッグの製造事案が確認されています。どんな些細なことでもかまいませんので、最寄の警察署まで情報提供をよろしくお願いいたします。

(2) アパート・マンション内での製造事案の検挙事例

ア 危険ドラッグ(ラッシュ)を製造・販売した者の検挙

都内某所のマンションの一室で、医薬品を混ぜ合わせ、危険ドラッグのラッシュ(亜硝酸イソブチル)を製造し、販売していた30代の男を検挙しました。この者は、危険ドラッグ(粉末)を海外から輸入し、自宅で小分けして販売もしていました。

イ 麻薬(GHB)を製造した者の検挙

都内某所のマンションの一室で、医薬品を混ぜ合わせ、麻薬(GHB)を製造していた30代の男を検挙しました。この者は、覚醒剤も海外から輸入していました。



(3) 各自治体、警察署との危険薬物等に関する協定・覚書の締結状況及び新規契約時における「特約条項・確約書」の活用依頼について

平成29年9月末現在、都内48の自治体で、不動産業界支部及び警察署と、危険薬物等に関する協定・覚書の締結をしております。未だ、締結をしていない地区にありましては、自治体、不動産業界、警察が協力して、危険薬物を撲滅していくという機運を醸成するため、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

また、実効性のある協定にするため、引き続き、協会員の皆様に対し新規契約時に「特約条項・確約書」を積極的に活用するよう、ご指導をよろしくお願いいたします。

(4) 広報啓発活動の推進について

警視庁では、危険薬物撲滅に向け各種広報啓発を推進しております。

今後も、東京メトロ、駅構内、映画館等で、薬物乱用防止広報啓発スポット映像の放映を予定しております。

※ 警視庁では、危険ドラッグ・規制薬物の部外向け教養DVDを作成し、各種研修会等への講師派遣を積極的に実施しております。少人数単位の研修会等でも結構ですので、是非お声がけをください。講師を派遣させていただきます。

